

2019年度平安女学院学校評価 各教科編 年度末評価

評価領域	重点目標	具体的方策	前年度比較	評価		
教科指導 【国語】	中学生の学力を向上させるために、授業規律をはじめ、宿題や課題の提出、個別学習によるつまづき克服などに対する丁寧な指導を行なう。	漢字テスト・百人一首暗唱・素読(古今の名文の暗唱)・週末課題の提出など、日々の学習に向かわせる取り組みの徹底。		A	A	A
		年間10冊の読書に取り組みさせる。	↑	A		
		特に3年生においては、コースの特性を意識した授業を行い、高校段階へのスムーズな橋渡しができるようにする。		B		
		教科指導と生徒指導を融合させるため、中学担任団との日常的連絡・相談を行う。		A		
	高校における各コースの目標達成に向けて基礎学力と進路決定に必要な学力を涵養する。	アグネスコース 進路実現のための学力と、小論文を書く力をつけるとともに、指定校・マーク模試対策にも力を入れる。		B	B	
		ESコース 知的関心に根ざした確かな学力を身に付け、各自の志望校に合格できるための学力をつけることを最重点目標とする。		B		
		立命館コース 語彙・漢字を確実なものとし、読解力とともに、論理的文章を書く力をつけ、到達度検証試験をクリアする。	↑	A		
		幼児教育進学コース 問題演習や読書などを通して、読解力と表現力を伸ばしていく。	↑	B		
	生徒の主体的学びを促すための教科指導の研究を進め、教科業務における課題を明確にし、得られた経験を蓄積・共有する。	主体的な学びの基礎となる読書に生徒に向かわせる日常的取り組みを、図書室と連携しながら推進する。	↑	A	A	
		教科内で担当者・小教科を変えて授業参観を実施し、情報集約する。		A		
		1学期の情報集約を基礎としながら、「主体的学習を促す授業展開」とは何かを討議する。		B		
		2学期の討議結果を、それぞれの授業で実践し、その結果を共有する。		B		
評価領域	重点目標	具体的方策	比較	評価		
教科指導 【社会】	中学生の学力を向上させるために、授業規律をはじめ、宿題や課題の提出、個別学習によるつまづき克服などに対する丁寧な指導を行なう。	全ての土台となる授業規律の徹底を行い、宿題等も確実にし切りらせることで学習への取り組み姿勢をしっかりと育てる。		A	A	B
		繰り返しの学習や演習を授業に取り入れ、家庭での学習もさせていく。特に家庭での学習については学年と連携をはかり時間の確保なども含め確実に行わせる。		A		
		朝日新聞「今解き教室」の活用を進めていく。		D		
		高校では授業内容に関連するトピック、時事問題をとりあげていく。		A		
	資料やデータなど様々な情報を理解し活用する能力の育成及び、主権者として社会問題などと向き合う力を育てる。	中学生ではニュースタイムでの取り組みを継続する中で、記事によっては他教科の担当教員を巻き込んだ展開を行う事で教科横断的な学習の意識付けをはかっていく。		D	C	
		ベアワークによる問題の出し合いや生徒が作った問題を集め小テストを実施するなど既習内容を深める取り組みを行う。		B		
		グループで課題に取り組み、討論をまとめ発表するなどのアクティブラーニングの取組みを進める。		B		
		教科間の交流と授業研究を行う。		D		
	到達目標を達成するための手立てを構築する。	定期考査に地図・表・グラフなどを見て、自分で考えて解ける問題を取り入れ、単純な暗記だけの問題に偏らないようにする。		A	C	
		ICTを含めた新しい試みを研究する。		B		
	評価領域	重点目標	具体的方策	比較	評価	
教科指導 【数学】	中学生の学力を向上させるために、授業規律をはじめ、宿題や課題の提出、個別学習によるつまづき克服などに対する丁寧な指導を行なう。	授業規律を守らせ、授業の価値を上げる。		A	A	A
		こまめに課題、チェックテストを行い、個人個人の生徒のつまづきを把握する。		A		
		試験(考査試験、模擬試験)の振り返りをさせることによって、弱点補強をする。		A		
		1つの教科で動くのではなく、他教科、学年との連携を結ぶ。		A		
	時代が求める学力の育成を図る新しい実践を展開する。	日常や身近な課題を題材として数学を活用する場面を設定し、数学的な思考を深めることのできる教材の研究を行う。	↑	A	A	
		学力中間層の手だてを厚くするため、自主的な学習方法などの指導を強化し、学習意欲を高めさせる。		A		
	到達目標を達成するための手立てを構築する。	教科研修として、大学入試研究、到達度検証試験研究や、各々の授業研修を行うことにより、各自のスキルのレベルアップをはかる。		A	A	
		週1回の教科会議を通じて、コース、学年問わず、共通認識を持つ。		A		

2019年度平安女学院学校評価 各教科編 年度末評価

評価領域	重点目標	具体的方策	比較	評価		
教科指導 〔理科〕	中学理科は3年間を通じて、理科への興味関心を高め、求められる学習内容の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	生徒の認知能力の発達を踏まえた教材の工夫を行う。		C	C	
		形成的評価に文章や言葉による把握を入れる工夫をする。	↑	B		
		実験・観察はねらい、方法、考察など一連の流れを生徒自身が把握できるレポートが3年間で身につくような工夫をする。		C		
		教科の評価基準について、他教科や過去の年度を参考に検討を行う。		B		
		中学担当の教員のみならず、小教科を柱に高校担当の教員とも協力して取り組みを行う。	↑	C		
	どの小教科に於いてもその内容について、生徒の実態にあわせて工夫をおこなう。	教科書や問題集の内容を、生徒の実態に合わせ効果的に学習できることをねらいとして、精選・補完を行う。		B	B	
		形成的評価を意識し、授業後との到達点を明確にする工夫を行う。		B		
		中学校に於いて自由研究に取り組む。グループ毎にテーマを決め、夏休みなどを利用し、発表も視野に入れた指導を行う。	↑	B		
	高校における目標と達成に向けた取り組み	高校の各基礎科目と科学と人間生活は、必要な基礎知識を獲得させ、科学的な視点で現象を捉える能力を育成する。		-	B	B
		ES コースの化学基礎・生物基礎はそれぞれ化学・生物の内容を見据えた受験に対応できる内容とする。		A		
		選択科目はそれぞれの設置のねらいに合わせた到達点まで引き上げる。		B		
		学校設置科目はそれぞれのコースの進路目標に合わせ、進学後に必要な知識やスキルを獲得させる。		B		
		理科を受験に使う生徒について、2年生後半からの様々な外部模試の結果を授業内容に活用し、おのおのに必要な受験学力の育成をはかる。		C		
アクティブラーニングに向けての取り組みを各担当で計画し実践する。	1学期に於いて実践交流を行い、2学期に研究授業を設定する。		C	C		

評価領域	重点目標	具体的方策	比較	評価	
教科指導 〔保健体育〕	中学生の学力を向上させるために、授業規律をはじめ、宿題や課題の提出、個別学習によるつまづき克服などに対する丁寧な指導を行なう。	基礎身体運動能力の向上		B	A
		集団の中で生活する能力を育てる。集団の中で規律を守ること、秩序を保つこと、他者を理解する心を育む。		A	
		試合、グループワーク、創作ダンスなどの集団活動を通して、リーダーシップ力、協調性、自主性を育てる。集団との関わりの意識を高め、主体性のある授業を行えるようにする。		B	
	基礎身体運動能力の向上の為に運動機会を増やす。	保健の時間を活用し、運動する機会を増やす。		B	C
		昼休みに校庭で遊ぶ機会を作る(ボールの貸し出し、大縄など)。		D	
		中学2年生について、前期、後期で種目変更を行い生徒のスキル向上があるか検証する。		-	
		中学生徒会と連携しスポーツ大会の実施などを行う。		D	
		ウォーミングアップ時に基礎身体運動能力向上のためのトレーニングを取り入れる。		A	
		今年度のスポーツテストの結果で全国平均伸び率を上回れるようにする。		D	
	時代が求める学力の育成を図る新しい実践を展開する。	ワールドカップやオリンピックなどの大きなイベントを通じたスポーツの魅力を発信する。	↑	A	A
		生涯スポーツに発展できるように多様なスポーツにふれる指導体型を作る。		B	
		心身の健康と体を動かすとの関連性を理解できるように取り組む。		B	

2019年度平安女学院学校評価 各教科編 年度末評価

評価領域	重点目標	具体的方策	比較	評価	
教科指導 [芸術]	中学生の学力を向上させるために、授業規律をはじめ、宿題や課題の提出、個別学習によるつまづき克服などに対する丁寧な指導を行なう。	授業規律をしっかりと守らせる(基本的な指導の徹底: 予鈴で着席・忘れ物・挨拶・私語・提出期限)		B	B
		生徒一人ひとりの発言の機会を設ける(全体で個人の意見を尊重し、耳を傾ける機会を増やす)		B	
		鑑賞教育の充実(相手の心理状況などを推測し、喜びや悲しみに共感する機会を設定する)		B	
	生徒の興味関心を引き出し、主体的な学習を促す授業実践を行う。	模擬授業を行う(先生役、生徒役になっての歌の指導: 導入の仕方・声かけ・ピアノ伴奏の仕方)		A	B
		作品制作の前に、「何に感動するのか」、「何に心が動かされるのか」、それぞれの感情を顕在化させ、自分自身と向き合う課題を設定する。		B	
		漢字仮名交じり文の題材を既成のものからではなく、自作の文章や詩などで作成する方向ですすめる。		B	
		日常生活において、縦書き出来るものは縦で書くこと提案をする。		B	
	評価方法及び評価、指導方法の検討をおこなう。	公平・公正な評価、試験までの努力や態度を重視した評価を行う。		A	B
		現状の絶対評価の問題点について整理する。(到達目標・平常点・大学推薦などとの絡み・他教科とのバランス)		A	
		授業出席が困難な生徒に対してのフォロー及び、発達課題や学習障害をもつ生徒への指導方法を検討する。		C	
	時代が求める学力の育成を図る新しい実践を展開する。	生徒に簡単な曲、短い曲や歌を作曲し、発表する。		C	B
		グループで一つ歌を作り、歌えるように指導をする(歌は園児が歌えるような曲)。	↑	B	
		数人のグループでテーマを決めてミニコンサートを行う(ソロ・連弾・歌唱・弾き歌い)。		C	
		自分自身の専門分野以外での教授やプロ(=外部講師)を招いての授業を展開する(ファッションデザイナー・雑誌編集者・コミュニケーション授業・音楽療法士など)。	↑	B	
		他校などからより多くの実践例を学び授業に生かす。		B	

評価領域	重点目標	具体的方策	比較	評価	
教科指導 [英語]	中学生の学力を向上させるために、授業規律をはじめ、宿題や課題の提出、個別学習によるつまづき克服などに対する丁寧な指導を行なう。	授業規律を確立し、学習に集中できる環境を整える。		A	A
		わかる・楽しい授業を展開し、生徒主体の授業を行う。		A	
		英語活動に親しみ、実践的なコミュニケーション能力を育成する。		A	
		家庭学習を充実させ、宿題や課題の提出を徹底させる。	↑	A	
		生徒のつまづきに気づき、丁寧に対応できる体制をとる。		A	
	自ら英語で発信・表現するための基盤づくりを行う。	「大学入学共通テスト」に対応できる力をつける。		B	A
		「自分で考え、他者と協力しあって問題を解決できる力」を養う。	-	A	
		英語の4技能をバランスよく指導できる体制を整える。	-	A	
	時代が求める学力の育成を図る新しい実践を展開する。	教科内での公開授業や実践報告を通じて、各自の課題を明確にする。		B	B
		中学・高校各コースとしての目標を明確にしなが、情報を共有し「チーム」として取り組む。		B	

2019年度平安女学院学校評価 各教科編 年度末評価

評価領域	重点目標	具体的方策	比較	評価	
教科指導 〔家庭〕	生活の中での実践力をつけるために、基本的な知識を得させ技術力の向上をはかる。	グループ活動を取り入れる	↑	A	A
		課題解決などのレポートを作成し発表の機会を設定する	↑3	A	
		応用作品への取り組みを奨励する		A	
		分野に応じた最新の事例や実習を取り入れる		A	
		実践に繋がる知識の活用法を知らせる		A	
		理解と興味の確認を適宜行う	↑	A	
	到達目標を達成するための手立てを構築する。	課題の期限内完成と作品の完成度を高める	↓	B	A
		基本的事項の定着と応用力・生活への実践力を高める	-	A	
		実践力向上をはかる	-	A	
	中学生の学力を向上させるために、授業規律をはじめ、宿題や課題の提出、個別学習によるつまづき克服などに対する丁寧な指導を行なう。	授業規律を守らせ、実習作品の完成度を高めていく。		A	B
授業内に内容確認小テストを実施する。		↑	C		
生徒の興味関心を引き出し、主体的な学習を促す授業実践を行う。	トウルールコスト視聴を通して消費行動と人種・人権問題、環境問題について考え、調べさせる。		D	D	
時代が求める学力の育成を図る新しい実践を展開する。	高校卒業後の実生活で必要になる経済的知識・生活全般の知識と、生活的・経済的自立を獲得させるために、実際の社会生活に基づいたシミュレーションやロールプレイ等を通して主体的に考えさせる。	↑3	A	A	

評価領域	重点目標	具体的方策	比較	評価	
教科指導 〔情報〕	情報機器を効果的に活用したコミュニケーション能力や情報の創造力・発信力を養う。	① 情報の収集・判断…目的に応じた情報の取捨選択、信憑性の高い情報を見極める情報検索能力の育成		D	C
		② 情報の表現・処理・創造…情報デザインに配慮したコンテンツを処理、創造、表現する力の育成		B	
		③ 情報の発信・伝達…効果的に伝えるためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション技術の育成		C	
		④ 情報の処理(タッチタイピング)…目標値5分間で300字以上	↑	B	
	生徒の多様な学習要求に応え、情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度を高くするために、より広く、より深い知識の習得をすることを旨とした授業内容とする。	情報や情報技術が果している役割や及ぼしている影響、問題点について理解させる。		A	B
		情報を適切に活用するうえで必要とされる情報モラル、知的財産の保護についての正しい考え方を知識としての理解にとどまらせることなく、実践的な態度に結びつくよう指導する。		B	
	教職員集団の連携・協働に取り組む。	グループディスカッションを通して、情報技術が果している役割や及ぼしている影響、情報社会における問題点および解決策についての考えを深める。考える、発言する、話しを聞く、まとめる、発表するなどの学習を通じ、論理的思考力およびコミュニケーション能力の育成を図る。	↑	C	B
各クラス担任との間で、生徒状況の報告や相談を行う。			C		
	配慮が必要な生徒に関しては、教育相談部、保健室と連携して、それぞれの生徒に応じた決め細やかな支援を行う。		B	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	比較	評価	
教科指導 〔聖書〕	中学生の学力を向上させるために、授業規律をはじめ、宿題や課題の提出、個別学習によるつまづき克服などに対する丁寧な指導を行なう。	読解力をつけ、想像力を養うために、できるだけ、解説本ではなく、聖書原本から言葉を理解させ、その話が何を伝えようとしているかを考えさせる。		B	B
		一つのテーマについてじっくり考え、自分の思いや考えを文章に表わすトレーニングを行う。		B	
		単元ごとに、小グループで意見交換をし、クラスに発表する機会を作る。		C	
	生徒の興味関心を引き出し、主体的な学習を促す授業実践を行う。	聖書の物語を通して、現代の社会問題や身近な問題を考えさせる授業を展開する。		A	A
		調べ学習を行う。		B	
	時代が求める学力の育成を図る新しい実践を展開する。	その年の人権学習のテーマを絡めて授業を展開する。		B	B
高校1年ESコース「総合学習」の授業とのコラボを試みる。		↓	C		

2019年度平安女学院学校評価 各教科編 年度末評価

評価領域	重点目標	具体的方策	比較	評価		
教科指導 〔総合〕	中学生の学力を向上させるために、授業規律をはじめ、宿題や課題の提出、個別学習によるつまづき克服などに対する丁寧な指導を行なう。	授業を聞くだけの「インプットの学習」から、自分の考えを発する「アウトプットの学習」ができるようにする。		A	A	A
		課題をきちんと提出することで、「積み重ね学習の大切さ」を教える。	↓	C		
		生徒ひとりひとりが興味を持っていることを引き出し、調べたことを発表させる時間をとる。個々の発達段階に応じた指導補助が必要な場合は、複数の教科教員のアドバイスと協力を要請する。		A		
		一緒に学ぶ生徒間のコミュニケーションの尊重、体験学習をする際にお世話になる方へのマナーを学ばせる。		A		
	生徒の興味関心を引き出し、主体的な学習を促す授業実践を行う。	教室内で生徒が討議しやすいよう机の向きを変えたり、一方的なコミュニケーションにならないよう工夫をする。		A	A	
		授業に外部から講師を招いて、専門的な知識、特別活動に関心を寄せることができるような企画をつくる。		B		
		生徒が持っている疑問や関心を積極的に授業内に取り入れる。例)NIE 教育の実践、ジグソー法など	↑	A		
	時代が求める学力の育成を図る新しい実践を展開する。	中学・高校生のソーシャルスキルの獲得を意識した指導をする。	↓	B	B	
		ルーブリックの評価方法を取り入れ、テストがない教科でありながら、どのような評価をするか生徒に知らせる。		B		
		新指導要領への対応について、評価方法や履修単位数について慎重に検討した上で、目指す学校の特色を提案する。	↓	C		